

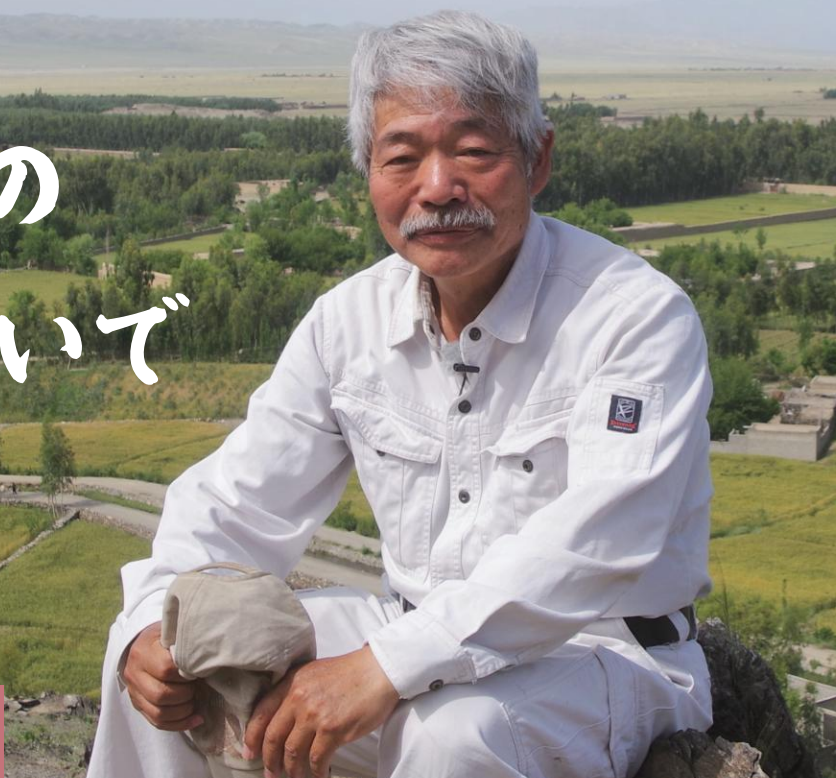
中村哲医師の 思い、つないで



【Profile】

鹿児島県出身。徳洲会病院（福岡市）勤務を経て1990年9月、当時中村哲医師の赴任先であったパキスタン・ペシャワールのミッション病院へ看護師として赴任。以降、医療活動を始め、井戸掘り、食糧配給、その後の用水路事業等、一貫して中村医師の現地活動を支えてきた。1998年日本の寄付でペシャワールに建てられたPMS基地病院（総院長・中村哲）では、院長代理の責務を果たした。2009年、現地の治安悪化のため退避帰国し、現在ペシャワール会PMS支援室室長およびPMS総院長補佐として、現地活動を支えている。

2022年、フローレンス・ナイチンゲール記章を受章



ペシャワール会PMS支援室長

お話 藤田千代子さん

中村哲医師が亡くなって間もなく7年…その遺志を継ぎ、希望を受け継いで進められている現地の取り組みを紹介するとともに、この時代、世界とどう関わるかを考えたい

■ **11/1 (sun) 13:30分開始**

■ **練馬区役所地下・多目的会議室**

（練馬区豊玉北6-12-1）

西武池袋線・有楽町線など 練馬駅西口

都営大江戸線 練馬駅A2出口

（裏面に案内図あり）

■ **参加費500円（こども/学生 無料）**

※ 事前申込制。お申込みは下記事務所
または、こちらのQRコードから➡



主催 つながる市民・練馬／共催 ペシャワール会関東連絡会

連絡先 03-5933-0108 ikesan.office@gmail.com (つながる市民・練馬)

「中村哲医師の事業は 全て継続し、 中村哲医師の希望は 全て引き継ぐ」

中村哲医師の突然の訃報。深い悲しみの中で、哲さんの挑戦を支えてきたペシャワール会と現地のアフガン人スタッフたちは、こう決意し立ち上がりました。以来、7年。哲さんの念願であったハンセン病医療の拠点が生まれ、農業はさらに豊かな実りをもたらすようになりました。そして、今なお緊急を要する水源確保の格闘は、大河に沿った用水路を柱とした取り組みから、さらに奥に入り、地下水を活かして貯水池を作っていく取り組みへと大きく広がりつつあります。『みどりの大地計画・第二章』です。

残された人たちの強い意志と深い決意は、まさに『中村哲』が残したものの偉大さ、生命力を物語っています。



中村哲医師の現地報告を練馬で最初に開いたのは、2005年。それから計6回、哲さんは練馬に足を運んでくれました。ときには現地の困難を背負い、ときには痛む体を隠しながら、それでも現地の新しい一歩、人々の喜びの表情を力に変えてやってきてくれました。

練馬での6回の報告会に参加した方は、1万人近くになります。私たちは、現地に行くことも、現地の困難を直接、分かち持つこともできませんでしたが、心から哲さんの思いに共感し、私たち自身が励まされてきました。

哲さん亡き後、その遺志を継ぐ事業を変わず支えていくことは、哲さんへの恩返しであり、約束でもあります。

11月1日、お待ちしております。

つながる市民・練馬代表
(練馬区議会議員)

池尻成二

